

の橋加賀 淺水橋越前 ○あさひつ橋八雲御説 あさむづの橋中略 ひだの國と云々 佐野船橋上野 ○さ

いわひの橋伊勢 密語橋備後 ○佐留橋遠江 ○佐比江橋攝州 木曾路橋信の ○みつ橋雲御説 三香

野橋遠江 ○三津河橋近江、みつの櫃河橋山城 ○辰橋同右、なくとも勢多長橋近江、只勢多橋共云 ○下略

〔山州名跡志愛宕郡〕鴨川橋 今無シ、今至下鴨。其路河原ヲ行ナリ、按ニ此大社造營ノ時、何ゾ大路

ヲ可不開哉ト、古老ニ尋ルニ、昔ハ西ノ堤ヨリ有橋、其所ハ今出河ノ北寺町阿彌陀寺ノ地ニ當リ、

其條鴨川ノ底ニ今猶大石アリ、是橋柱ヲ立シ石ナリト云々、又云、此路自此所在北大布施鞍馬貴

船、一原、二瀬、畑枝等ノ里ヨリ東ノ通路也、

〔夫木和歌抄二十一〕祇園の百首千鳥かものかは 皇太后宮大夫俊成卿

河千鳥神をやたのむかもがはらはしのわたりをなきわたるなり

〔長秋記〕長承三年六月十四日壬辰、御靈渡御間、大風雨、後聞鴨川橋破、

〔續南行雜錄〕祐茂記抄

安貞二年七月廿日、京師大雨、鴨河口出天橋流、人數百人死中略、春日大明神御祟之由有沙汰、

〔山城名勝志愛宕郡〕一橋井辛橋

〔枕草子七〕なほ世にめでたき物

里なるときは、たゝわたるを見るにあかねば、御やしろまで行て見る折もあり、おほきなる木の

もとに車たてたれば、松のけぶりたなびきて、火のかげにはんひのをきぬのつやもひるよりは

こよなくまさりて見ゆる、はしの板をふみならしつゝ、こゑあはせてまふほども、いとおかしき

に、水のながるゝをと、ふゑのこゑなどのあひたるは、まことに神もうれしとおほしめすらんか

し、少將といひける人の、としごとまひ人にてめでたきものに思ひまみけるに、なくなりて上

の御やしるの、一の橋のもとにあなるをきけば、ゆゑ、まふせちに物おもひいれじとおもへど、な